

## 大阪大学が誇る豪華な講師陣が揃い踏み。 第44回 大阪大学公開講座

数ある国立大学の中で、初めて総合的な公開講座を開いた大阪大学。つねに社会や人間を考えた「実学」の精神で講義を展開し、今年で44年目となります。

### …… 共通テーマ …… 暮らしと科学技術の未来図

### …… サブテーマA …… これからのエネルギーを考える

#### ■エネルギー資源・地球温暖化問題とガスハイドレート

大垣一成 (大阪大学大学院基礎工学研究科教授)  
9月12日(水) 18:30~20:00

人類が地球レベルの環境に直接影響を及ぼすことになった産業革命前後の大気中CO<sub>2</sub>総量変化についての認識を環境歴史学的側面から解釈してみます。京都議定書以降の動向とあわせて現在のCO<sub>2</sub>対策の問題点を改めて考える機会とします。エネルギー資源・地球環境問題対策の鍵を握る物質としてガスハイドレートに注目してきましたが、その構造や機能を概説し、CO<sub>2</sub>の深海底隔離・天然ガスの採掘と輸送・水素の貯蔵と輸送・新規熱媒体探索・ナノ反応場設計など演者らが提案してきた一連の技術開発についても触れます。

#### ■エネルギーの使い方を考える ～製品ライフサイクルの視点～

梅田靖 (大阪大学大学院工学研究科教授)  
9月19日(水) 18:30~20:00

本講義では、エネルギーの使い方について考えます。工業製品の省エネ技術は年々高度化していますが、家庭には電化製品が増えてむしろ家庭のエネルギー消費量は増加しています。「こういった問題の構造はどのように考えれば良いのか。」「解決するためにはどうすれば良いのか。」「について議論します。

#### ■太陽光エネルギーは主要エネルギー源になり得るか？

松村道雄 (大阪大学太陽エネルギー化学研究センター教授)  
9月26日(水) 18:30~20:00

地球に到達する太陽光エネルギーの量は、人類が消費しているエネルギーの1万倍にもなります。太陽電池は広く利用されるようになっていますが、その利用をもっと広げるためにはどうしたらいいでしょうか。また、他の太陽光エネルギーの利用法にはどのようなものがあるのでしょうか。こうしたことを考えてみたいと思います。



●会場／大阪大学中之島センター  
●定員／各サブテーマ別70名(申込み先着順)  
●受講料／サブテーマAの7講義をすべて受講する場合は7,200円。サブテーマBの8講義をすべて受講する場合は7,200円。サブテーマABの15講義をすべて

受講する場合は9,200円。全15講義のうち1講義～数講義を選択受講する場合、1講義1,500円。  
●お申込み・お問合せ／大阪大学公開講座担当  
TEL.06-6444-2137  
kousya-syagaku-renkei2@office.osaka-u.ac.jp

### …… サブテーマB …… 暮らしと減災を考える

#### ■2011年東北地方太平洋沖地震から知る、学ぶ、インフラによる減災

常田賢一 (大阪大学大学院工学研究科教授)  
10月31日(水) 18:30~20:00

地震のたびに、社会基盤(インフラ)の重要性が再認識されますが、東日本大震災で壊されたインフラの機能あるいは復旧から減災を知って頂くとともに、インフラの津波災害の現地調査から学んだ減災に関する知見およびその知見を実証するために取り組んでいる研究を紹介し、津波に対する減災を考えて頂きます。

#### ■その時、あなたは？ 一日頃からできること、その時すべきこと

山本仁 (大阪大学安全衛生管理部長教授)  
11月7日(水) 18:30~20:00

大地震などの災害から自分自身の生活を護るために何ができるのか。日頃からの小さな工夫の積み重ねがいざという時の被害を最小限に抑えてくれます。本講義では、日頃から簡単にできる対策やその時の対応について、東日本大震災での大学研究室の被害やその後の対策などの事例を紹介しながら考えていきます。

#### ■津波、これまでの歴史的な災害をふまえて生活に生かすー生活防災ー

松村暢彦 (大阪大学大学院工学研究科教授)  
11月14日(水) 18:30~20:00

過去の災害の経験は過信するには危険すぎ、役に立たないものとして捨ててしまうにはもったいないです。過去の災害時とった行動を共有することで、災害時はもちろんのこと日ごろの生活をより豊かにしてくれるヒントが隠されています。

#### ■災害時における心理的反応とそのケア ～医療現場と絡めて～ (仮題)

谷向仁 (大阪大学大学院医学系研究科特任助教)  
11月16日(金) 18:30~20:00

災害は突発的に起こるものであり、事前にその出来事を予期して日々強固に身構えている人はほとんどいないでしょう。災害に直面することにより人の心は大きなダメージを受けます。そして災害直後の急性期からその後の経過においても様々な心理過程を経験します。これは医療場面における突発的な致死的な疾患との直面(例えば、がんの告知など)とその経過において生じる心理的反応と似ている点が多くあります。本講座では、災害時における心理的反応とそのケアについて、特にがん医療における心理的反応と絡めながら皆さんと一緒に考えたいと思います。

#### ■インターネットを通じた多言語震災情報発信の試み

高橋明 (大阪大学 理事・副学長)  
11月30日(金) 18:30~20:00

東北大震災が発生した際、日本語、英語などによる情報を理解することが困難な在留外国人たちに、彼らの

言葉で情報を発信することで、少しでも不安を取り除き、助けになれないかと考えて、「世界言語研究センター(当時)多言語震災情報」HPを立ち上げて、新聞記事の翻訳、放射能情報の翻訳、その他震災ボランティアなどに関する情報を多言語で発信しました。その経緯、経験について。

#### ■減災とソーシャルキャピタル

河田潤一 (大阪大学大学院法学研究科教授)  
12月7日(金) 18:30~20:00

互酬性の規範や、信頼のネットワークといった社会的な関係性、つまりソーシャル・キャピタルは、減災という共同事業に向けた市民社会組織間の連携を促します。減災への取り組みを成功(success、語源的には<to go from under>)させるには、<from under>からする合意形成の場を民主的に運営して行くことが欠かせません。ソーシャル・キャピタルはこの点でも有効な資源なのです。

#### ■地震に強い建築と街づくりを目指す

宮本裕司 (大阪大学大学院工学研究科教授)  
12月12日(水) 18:30~20:00

過去の大地震における地震被害を振り返り、将来起こる巨大地震に対してどのように備えるかを考えるため、地震の強さと建築被害の関係について分かりやすく説明し、地域での被害想定と減災に向けた耐震技術について話をします。

#### ■次世代の都市・地域づくり ースマートコミュニティと自然の叡智 に学ぶまちづくりー

加賀有津子 (大阪大学大学院工学研究科教授)  
12月19日(水) 18:30~20:00

東日本大震災後、限られた資源を効率的に活用し、持続可能な社会を構築するまちづくりのあり方に注目が向けられています。本講義では、情報通信技術や先端技術の活用による「スマートシティ」「スマートコミュニティ」の取り組みや、低環境負荷で循環型社会を実現している自然の叡智に学ぶまちづくりについて論じます。

■お申込み・お問合せ  
大阪大学公開講座 担当 TEL.06-6444-2137

■受付期間  
サブテーマA「これからのエネルギーを考える」  
8月27日(月)～9月7日(金) 必着

サブテーマB「暮らしと減災を考える」  
10月15日(月)～26日(金) 必着

■申込方法  
1. 所定の「受講申込書」に必要事項をご記入のうえ、郵送、FAX、メールでお申し込みください。メールでの申し込みは、大阪大学21世紀構想センターHPから受講申込書をダウンロードしてください。  
2. ご送付いただいた受講申込書を確認後、受講決定通知の連絡を、電話またはメールで差し上げます。  
3. 連絡を受けられた方は講習料をお振込み願います。

受講申込書をダウンロードできます。  
第44回大阪大学公開講座 検索

料理が開く、学問のトビラ。

## 大阪大学×大阪ガス アカデミッククッキング

大好評シリーズが  
開講3年目に  
入りました!

“食”や“料理”という身近な切り口から、学問的なもの見方・考え方を身につける教養講座です。専門的で難解な大学の先生の研究でも、どこかで普段のわたしたちの生活とつながっている…。そんな楽しい実感から、日常生活にちょっと変化をもたらすアカデミックな思考回路が生まれます。

●会場／大阪ガスクッキングスクール千里 ●定員／24名(申込み多数の場合は抽選)  
●対象／高校生以上 ●受講料／2,000円  
●お申込み／大阪ガスクッキングスクール千里 <http://www.og-cookingschool.com>  
またはTEL.06-6871-8561 (9:00～17:30 祝・その他指定日除く)  
●講座内容のお問合せ／大阪大学21世紀構想センター TEL.06-6850-6443

#### ■きのご食べちゃい隊

栗原佐智子 (大阪大学出版会)  
10月26日(金) 18:30~21:00

食材としてポピュラーなのに、時には高級品、森にも、庭にも、時には家にも突然生えてしまう、きのこ。毒にも薬にもなり、不思議な色やかたちで驚かせ、野生のものも安易に食べてはいけないという禁断の魅力も持ち合わせるため、多くの人が愛好し、キャラクターや映画に用いられます。大阪大学のキャンパス内でもよくみると、多くのきのこが見つかります。キャンパス内のきのこの仲間たちを紹介しつつ、きのこって、一体なんなのか、きのこのおいしさってなんなのか、栄養学、植物学的な面から探検して食べちゃいましょう!

■課料料理/きのごたっぶり秋のごちそう(きのこほうれん草のクリーム煮、きのこのピラフ、きのごと魚介のマリネ)  
申込受付期間/9月1日(土)~18日(火)(web)  
申込受付は9月1日(土)21:00~、電話受付は9月7日(金)11:00~)申込多数の場合は抽選の上、申込まない方全員に9月19日(水)から順次、郵便またはメールにて当落をお知らせします。※2011年10月と同じ内容につき、前回受講されていない方の申し込みを優先します。

#### ■ごまつた時には自分を食べる? ~タコもびっくりオートファジー

吉森保 (大阪大学大学院医学系研究科教授/同大学院生命機能研究科教授)  
11月28日(水) 18:30~21:00

ほんとうかうそか知りませんが、タコはいざとなると自分の足を食べるという説があります。人間、いくらおなかがいなくても、自分のからだを食べようなどはありません。しかし、我々の体の中の細胞は、飢餓状態におちいると、「オートファジー(自食作用)」という作用で、自分で自分を食べているのです。最近では、単に栄養を補給するだけでなく、古くなった細胞内の「部品」をリサイクルする、侵入してきた病原菌をやっつけるなど、「オートファジーは「細胞内消化システム」として、我々の生命を維持するためにもすごく重要であることがどんどんわかってきました。オートファジーの研究は日本発といってもいい分野ですが、その言葉はギリシャ語が起源で、オートは自分、ファジーは食べる、を意味します。今回は、自食つながり、ギリシャつながり、オートファジーのわかりやすいお話とギリシャ風タコ料理です。あたらしく研究分野であるオートファジーを学びながらおなかをす

かせて、自分じゃなくてタコをいっしょに食べましょう!  
■課料料理/地中海風料理タコづくし(ギリシャ風タコの Pasta、タコとバジルのマリネ、タコのフリッター)  
申込受付期間/10月1日(月)~18日(木)  
(web)申込受付は10月1日(月)21:00~、電話受付は10月9日(火)11:00~)申込多数の場合は抽選の上、申込まない方全員に10月19日(金)から順次、郵便またはメールにて当落をお知らせします。

■シスターカフェ「セリフの覚え方3」  
9月5日(水) 19:00~21:00 定員30名程度  
お芝居を見て「あんなセリフも、よく覚えるな〜」と思ったことはありませんか?3回目の今回は作家、演出家、俳優の黒木陽子さんをお迎えして、セリフを覚える際につけられていることなどをお話しいたします。セリフ覚え体験コーナーも設けます。お気軽にご参加ください。ゲスト/黒木陽子(劇団衛星所属 俳優/ユニット美人代表)、カフェマスター/紙本明子(大阪大学 CSCD 特任研究員)

#### ■ナボリのクリスマス 「ご誕生」を祝う音楽、そして食卓

山田高誌 (大阪大学大学院文学研究科助教)  
12月20日(木) 18:30~21:00

キリストの降誕を祝うクリスマスは、東西のキリスト教会にとっても最大の祝祭です。ただし、「12月24日に、ケーキを食べるプレゼントを贈る/もらう」と私たちに刷り込まれてきた“型”は、2000年以上に渡って連続と祝われてきたこの大イベントにとって、デフォルメされた一つの地域版スタイルしかありません。実際のところこの祝祭は、ローマ時代のミトラ教における冬至の祭りや、トルコ出身の聖ニコラの逸話など、キリスト教の成立にまつわる様々な歴史が絡み合いながら生まれたため、その日程や祝い方には宗派や地域、時代の特徴が反映され、それぞれ異なっているのです。講座では、「ナポリ王国」としてイタリア半島にあって長らく独自文化を育んでいたナボリの伝統的クリスマスを、17~18世紀の教会音楽、プレゼビオにみられる飾り付けの様子、そしてまた現在の市民の食卓の“実習”を通して、探ってみたいと思います。

#### ■ごまつた時には自分を食べる? ~タコもびっくりオートファジー

吉森保 (大阪大学大学院医学系研究科教授/同大学院生命機能研究科教授)  
11月28日(水) 18:30~21:00

ほんとうかうそか知りませんが、タコはいざとなると自分の足を食べるという説があります。人間、いくらおなかがいなくても、自分のからだを食べようなどはありません。しかし、我々の体の中の細胞は、飢餓状態におちいると、「オートファジー(自食作用)」という作用で、自分で自分を食べているのです。最近では、単に栄養を補給するだけでなく、古くなった細胞内の「部品」をリサイクルする、侵入してきた病原菌をやっつけるなど、「オートファジーは「細胞内消化システム」として、我々の生命を維持するためにもすごく重要であることがどんどんわかってきました。オートファジーの研究は日本発といってもいい分野ですが、その言葉はギリシャ語が起源で、オートは自分、ファジーは食べる、を意味します。今回は、自食つながり、ギリシャつながり、オートファジーのわかりやすいお話とギリシャ風タコ料理です。あたらしく研究分野であるオートファジーを学びながらおなかをす



アカデミッククッキング 検索

## 会社帰りにちょこっと寄り道。ラボカフェ

参加者が自由な議論を行う対話型プログラムです。

参加費  
無料

●会場／アートエリアB1  
●定員／各回により異なります。(当日先着順・入退場自由)  
●お問合せ／大阪大学コミュニケーションデザイン・センター  
TEL.06-6850-6632 [cscd@office.osaka-u.ac.jp](mailto:cscd@office.osaka-u.ac.jp)

#### ■ダンスワークショップ「踊りにおいでよ!ー第4回ー」 9月1日(土) 19:00~20:30 定員30名程度

多彩な活動で注目されるダンサーの砂連尾さんをゲストに迎え、だれでも楽しめるダンスの魅力について体験するワークを行います。今まで気づかなかった身体の動きに関する不思議について参加者のみなさんとともに語り合います。特別な準備や才能は必要ありません。お気軽にご参加ください。ゲスト/砂連尾理(ダンサー・振付家、神戸女学院大学非常勤講師) カフェマスター/西川勝(大阪大学 CSCD 教員)

#### ■シスターカフェ「セリフの覚え方3」

9月5日(水) 19:00~21:00 定員30名程度  
お芝居を見て「あんなセリフも、よく覚えるな〜」と思ったことはありませんか?3回目の今回は作家、演出家、俳優の黒木陽子さんをお迎えして、セリフを覚える際につけられていることなどをお話しいたします。セリフ覚え体験コーナーも設けます。お気軽にご参加ください。ゲスト/黒木陽子(劇団衛星所属 俳優/ユニット美人代表)、カフェマスター/紙本明子(大阪大学 CSCD 特任研究員)

#### ■中之島哲学コレクション/哲学カフェ「話が長いとは?」 9月12日(水) 19:00~21:00 定員50名程度

みなさんは人の話が長いと感じたことはありませんか?同じような話でも長いと感じたりそれほど気にならなかつたりするのはどうしてなのでしょう。今回の哲学カフェでは話が長いとどういうことなのか、みなさんと一緒に考えてみたいと思います。進行役/森本誠一(大阪大学大学院文学研究科博士後期課程)、カフェマスター/本間直樹(大阪大学 CSCD 教員)、共催/カフェフィロ

#### ■シリーズ:科学技術イノベーション「ユニバーサルデザイン」 9月13日(木) 19:00~20:50 定員50名程度

科学技術が社会にとってより良いものとして発展していく条件とは何か?各界で活躍するフロントランナーをお招きし、「社会の中のイノベーション」という観点から刺激的なテーマを共有するこのシリーズ、第4回は、同志社大学教授・株式会社ユニファイト会長の関根千佳さんに、「ユニバーサルデザイン」という考え方がイノベーションにどんな豊かさや多様性をもたらしているのか、伺います。ゲスト/関根千佳(同志社大学教授、株式会社ユニファイト会長)、カフェマスター/神里達博(大阪大学 CSCD 教員)、主催/公共圏における科学・技術教育研究拠点(STIPS、大阪大学・京都大学連携プログラム)

#### ■ライブ&ミュージック「歌で語り合う」

9月15日(土) 14:00~16:00 定員50名程度

レゲエ・アーティスト、ジャパニーズをゲストに迎えて、ライブ(生命・生活・人生)とミュージックについて語り合います。人生の幸せと社会の在り方の関係、暮らしに関わる文芸と自然、身近な問題を真剣に考えるジャパニーズの歌声に耳を傾けてみます。ゲスト/ジャパニーズ(レゲエ・アーティスト)、カフェマスター/西川勝(大阪大学 CSCD 教員)

#### ■中之島哲学コレクション/哲学セミナー

「あなたの身近な公共性」  
9月21日(金) 19:00~21:00 定員50名程度

パブリック・エンゲージメント(PE)というものをご存知ですか?PEとは私たち市民が公共的なことに関わっていくことを言います。ごみ問題から社会保障や科学技術の問題まで、すべて私たちの生活に関係し、同時に公共的な問題です。私たちにどんなPEができるのか、身近なところから一緒に考えてみませんか?進行/大阪大学臨床哲学研究室PE班、カフェマスター/本間直樹(大阪大学 CSCD 教員)、共催/カフェフィロ

#### ■サイエンスカフェ・オンエッジ10

「ノーベル賞でたどる免疫学の歴史」  
9月25日(火) 18:30~20:30 定員40名程度

19世紀後半から、感染症の克服のために免疫研究は盛んに行われてきました。そして、免疫学における多くの偉大な発見に対して、ノーベル賞が与えられています。ノーベル賞を受賞した人々の研究内容を彼らの人生も振り返りながら、免疫研究がどの様に発展し、何を明らかにしてきたのかをお話しいたします。免疫学の歴史を辿りながら、免疫の仕組みを理解し、今後の免疫研究の方向性に関して参加者とディスカッションします。ゲスト/植松智(東京大学医学研究所国際粘膜炎ワクチン開発研究センター特任教授)、カフェマスター/津村明子(大阪大学大型教育研究プロジェクト支援室 研究推進コーディネーター)、主催/最先端研究開発支援プログラム(中心研究者:大阪大学審良静明)

●主催/アートエリアB1【大阪大学+NPO法人ダンスボックス+京阪電気鉄道(株)】 ●共催/大阪大学21世紀構想センター ●企画制作/大阪大学コミュニケーションデザイン・センター(CSCD)、NPO法人ダンスボックス ●協力/NPO法人recip【地域文化に関する情報とプロジェクト】